世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)
第5次増資会合(概要)

平成28年9月20日
外務省国際協力局
国際保健政策室

9月16及び17日、カナダ・モントリオールにおいて、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)第5次増資会合及び関連行事が開催されたところ、概要以下の通り。我が国からは、藺浦外務副大臣が出席した他、40を超えるドナー、受益国及びオブザーバー(国連機関や市民社会等)が参加した。

【主要ポイント】

- 第5次増資期間(2017-2019年)に対し、総額129億ドルの拠出表明が行われた(目標動員額130億ドルをほぼ達成)。これにより、800万人の命が救われ、3億の新規感染が回避される展望。
- 我が国の高いプレゼンスを示した。藺浦副大臣から、当面8億ドルを拠出する旨改めて発表。会合後にグローバルファンドが発出したプレスリリースには、円ベースで前回比46%増と明記されたほか、イタリア外相が、自身のステートメントにおいて、我が国の昨年12月の増資準備会合及び本年のG7伊勢志摩サミット主催を評価する旨言及。
- トルドー・カナダ首相が会合の主要行事ほぼすべてに出席し、レセプションや夕食会も主催。セネガルやマリをはじめとするアフリカ諸国の国家元首や国連事務総長、ビルゲイツ氏、EC・英・伊の閣僚が出席したほか、独首相がビデオスピーチを行う等、各国の高いコミットメントが伺われた。藺浦副大臣は、会合のフリンジで主要閣僚等とバイ会談を実施し、国際保健分野等における協力につき意見交換を行った。

1. ドナーによる拠出表明

- (1) 2017~19年の第5次増資期間に対し、総額129億ドルの拠出表明が行われた。我が国は、藺浦副大臣がステートメントを行い、安倍総理がG7伊勢志摩サミットに先立ち、第5次増資向けに8億ドルの拠出を行うことを発表した旨言及の上、日本としてこのコミットメントを着実に果たし、国際保健分野に一層の貢献を行っていく決意を表明した。
- (2) 主要国の拠出表明額は以下の通り：
 - ・米国: 43億米ドル
 - ・仏: 10.8億ユーロ(約11.6億米ドル)
 - ・英: 11億ポンド(約14.3億米ドル)
 - ・独: 8億ユーロ(約8.9億米ドル)
 - ・加: 8.04億カナダドル(約6億米ドル)

2. 二国会談等

- (1) 藺浦副大臣は、ミツア国際協力・開発担当欧州委員およびダブル・グローバルファンド事務局長とそれぞれ会談を行い、国際保健分野や地球規模課題において、一層協力を進めていくことを確認。また、アリ・バングラデシュ人民共和国外相およびアミル・ケニア共和国外務長官ともそれぞれ会談を行い、前者には、ダッカ襲撃テロ事件を踏まえ、我が国の国際協力関係者に対する安全確保を改めて要請し、後者とは、総理のケニア訪問とともに保健分野を始めとする TICADVIのフォローアップで一致した。そのほか、トルドー・カナダ首相、ディオン・カナダ外相、ムシキワ・ルワンダ外務協力相、パテル英国国際開発大臣、グールド・カナダ国際開発大臣付政務官と短時間の意見交換を行った。
- (2) 藺浦副大臣は、モントリオールに所在するICAO本部を視察し、アウリCAO理事国議長と会談を行ったほか、ICAOに勤務する邦人職員や、モントリオール商工会のメンバーを含む日系企業関係者、グローバルファンド会合に出席した日本人NGO関係者等とも意見交換を行った。

(了)